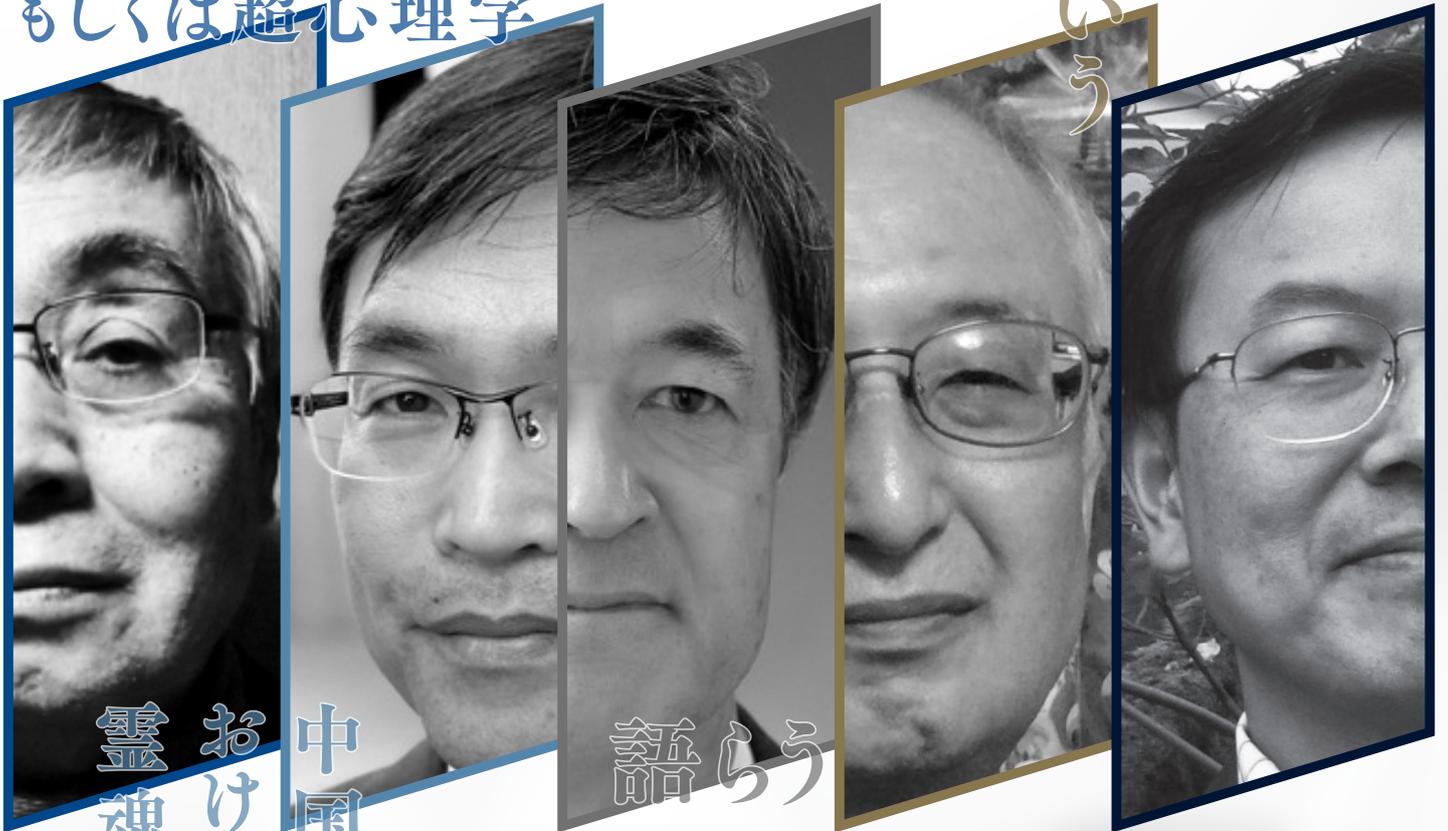


ドイツにおける
心霊思想、
もしくは超心理学

回路
心と
いう



中国に
おける
靈魂論

語る

死者たちの誕生

未来哲学研究所 第4回シンポジウム オンライン開催

靈魂論の未来——情念・鎮魂・他者

共催 東アジア藝文書院 後援 カクイチ研究所

日時：2022年3月30日(水) 15:00～17:30

会場：東京大学駒場キャンパス 東アジア藝文書院セミナー室

21世紀は9.11の同時多発テロから始まった。

その事件は、21世紀が「怒りの世紀」であることを象徴的に示していたような気がする。

そしてまたいま、ウクライナ侵攻という把握不能な事態が発生している。

21世紀に入り、伝統的な宗教への信者が減少しつつある中でも、スピリチュアルなものへの関心は高いままの状態が続いている。

怒りの時代であることと、霊的なものへの関心とは別個のものとして考えるべきなのか、共通の根底を探るべきなのか。

現代において、靈魂論を新しく考えることによって、両者の根底を掘る試み、それはなすべき価値があるのではないか。

文明圏を横断しつつ靈魂論の諸相を考察し、西洋近代が提供した心の枠組みを超え、かつ補う、「内なるもの」のヴィジョンを探る。



夢遊病、脱魂、死霊……近代的自我を取り巻く落暗の域を探究する。

ドイツにおける心霊思想、もしくは超心理学

——デュ・プレルとシュレンク＝ノッツィング

発表1 平野嘉彦 ドイツ文学 東京大学名誉教授



鬼神とは何か。「猛り狂う」その情念は、どこに着地したのか。

中国における靈魂論

発表2 中島隆博 未来哲学研究所副所長 東京大学



自然のふところ深くに住まう、日本の死霊たち。その声に耳をすます。

語らう死者たちの誕生

——日本列島における鎮魂の系譜

発表3 佐藤弘夫 元東北大学教授



南方熊楠、妻木直良……仏教は「心」という問題といかに格闘したか。

心という回路——仏教哲学への一視点

発表4 末木文美士 未来哲学研究所所長

西欧近代に由来しない、
時代と思考に突破の手がかりを！

哲学はいま、この時代の表現たり得ているのでしょうか。先端科学が導く奇っ怪な世界像、メディアの変貌、リアリティを増す終末の予感、近代、ポストモダン、そして……、その区分すら定かでない時代感覚、この混沌の中に一筋の道を開きたい。西欧近代を光源としない東方的なるもの、中世的なるものの像に突破のための手がかりを求め、生の理解に新しい局面を開こうとする諸科学の知見に学びつつ。

「近代」の外、以前・以後、そして未知へ！

いまこそあらためて、「近代」に由来するものではない思考の端緒を探求し、これまで排除されてきた着想の種子を掘り起こして、未知なる天窓を押し開き、「近代の外」に吹き渡る風を引き込むことが求められているのではないのでしょうか。そしてそこに、これまでとまったく異なる新しい哲学が築かれなければならないのではないのでしょうか。もちろんそれはあまりに大きすぎる課題ではありますが、それでも私たちはそこから逃れることはできません。それこそ未来に向けて人類がなおも希望と理想を持つようとするならば、哲学の再構築は緊急不可欠の課題があります。

イベントへの参加は下記サイトよりお申し込みください。

お申し込みの受付は2022年3月28日(月)午前10時まで

未来哲学研究所

第4回シンポジウムの参加お申込みはこちらをクリックしてください

シンポジウムはZoomにて配信いたします。

後日、Zoomの参加者用URLを、アンケートに入力されたメールアドレス宛に順次お送りいたします。

当日、スムーズに配信をご覧になるために、事前にZoomのインストールをお願いいたします。